

島根・中野清水遺跡

なかの
しみず

- 1 所在地 島根県出雲市中野町
- 2 調査期間 一〇〇三年（平15）四月～一月
- 3 発掘機関 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 角田徳幸・久保田一郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代前期～江戸時代初期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

中野清水遺跡は、出雲平野中心部の斐伊川西岸に位置する。今回の調査は、出雲市内を東西方向に走る予定の出雲バイパスの建設に伴うもので、一〇〇一年度～一〇〇四年度の三ヵ年にわたりて実施した。

調査の結果、古墳時代前期の遺構面では堅穴状遺構・土坑と小規模な土器群が混在し、それらの外側に走る南北方向の流路には多量の土器が廃棄されていた。



（今）市

古墳時代中期から後期にかけての遺構面では、掘立柱建物・堅穴住居・溝状遺構及び小規模な土器群が散在している。奈良時代の遺構面では、古墳時代には遺構がみられなかつた部分にも遺構が現われる。掘立柱建物五棟のほか、柱列・溝状遺構及び小規模な土器群がある。この時期の包含層からは、分銅などの銅製品やその鋳造に伴い生成されたとみられる銅塊が出土する。平安時代の遺構としては、ピットが多数あり、その上は室町時代末期から江戸時代初期までの水田面となる。

木簡は、一〇〇二年度の調査において、奈良時代の遺構面直上から出土した。包含層の遺物であり、遺構には伴わない。文字資料としては、他に奈良時代の包含層から出土した墨書土器四点がある。いずれも高台をもつ杯や皿の底部外面に墨書され、三点は「六」と読め、一点は「東」に似るが確定できない。三点の「六」については、はねや止めに対する意識に差が認められる。なお、一〇〇一年度調査でも、「塩冶」（律令制下の当地域の郷名「出雲国神門郡塩冶郷」を指すか）と記された墨書土器が出土している。

8 木簡の釦文・内容

(1) 「▽□□□□□」

177×24×5 032

表面は平滑に仕上げられ加工痕が残らない。裏面にはカットグラス状の加工痕が残る。下端は、表面から裏面へ向かって斜めに切断

しかけたが途中で失敗し、折り取つてある。文字は四文字分残るが
読みきれない。

なお、釈読にあたつては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏氏、馬場

9
關系文獻

鳥根県教育委員会 大津町北遺跡・中野清水遺跡 (二〇〇四年)

(久保田一郎)

טְבִיב :

7	6	5	4	3	2	1
遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡の年代 一三世紀中期～一六世紀初頭	遺跡の種類 集落跡	調査担当者 畠 信次・戸田和吉・高田莊爾・佐道弘之	発掘機関 福山市教育委員会・福山市埋蔵文化財発掘調査団	調査期間 第五〇次調査 一九九五年（平7）一〇月～一二月	所在地 広島県福山市草戸地先

(福山)

び橋脚建設に伴うものである。調査地は常福寺（現明王院）の門前にあたり、遺跡包蔵が確認されている中州北半の東側に位置する。

橋台部の東調査区（一八m ×九m）と、橋脚部の西調査区（一二m ×九m）において調査を実施した。